

2016-17年年末年始販売統計調査報告

<全体概要>

2016-2017年年末年始SC販売額は前年同期比で102.9%と前年を上回った。また、レジ客数(前年同期比101.0%)、客単価(同102.0%)ともに前年を上回った。

①年末(12/28~31)の売上高は全ての日で前年を上回り、年末トータルで前年比104.7%のプラスとなった。28日はレジ客数が98.6%と期間中で唯一前年を下回ったが、客単価が111%と大きく上回り、売上高の対前年比が期間中で最も大きい109.4%となった。今年は昨年と比較して年末にバーゲンを開始したSCが多かった影響もあり、年末の売上増加につながったとみられる。

②年始(1/1~1/3)の売上高前年比は101.0%と微増となった。1日(売上高前年比99.5%)と2日(同99.7%)の2日間は前年を僅かに下回ったものの、3日は前年比で104.2%となり、年始トータルでプラスとなった。

③客単価平均は、全期間で2,761円となった。年始は福袋の購入などの影響もあり、年末と比較して577円多い3,085円となった。また、客単価の分布をみると、全体の約80%が3,500円以内に収まる一方で、4,000円以上のSCも10.3%と約1割を占めた。

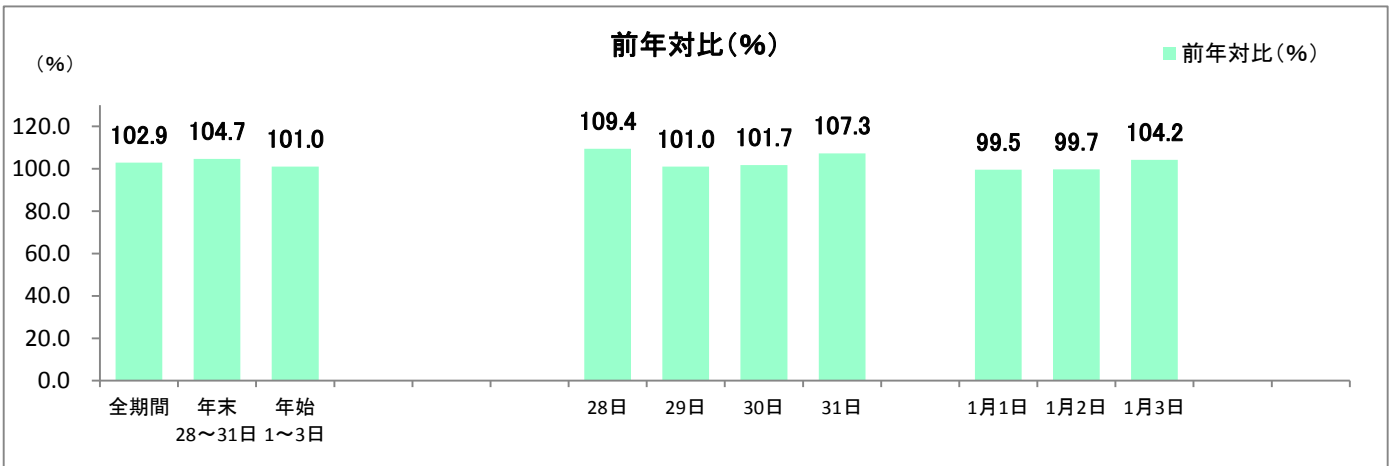
④バーゲン開始日は、1月2日が37.4%と最も多く、2番目に多かった1月1日の24.7%と合わせると、62.1%を占めた。一方で、12月中にバーゲンを開始するSCも24%あった。年始にバーゲンを開始したSCも、年始のバーゲンが年末の買い控えにつながったといった回答がみられ、周辺の商業施設の動向をみながら、いつバーゲンを開始するか判断に苦慮した様子が見受けられた。

⑤好調業種は、飲食が最も多く、以下、生鮮食品、雑貨と続いた。一方で不振業種として婦人衣料が最も多く、次点の靴・鞆の2倍以上の回答があった。

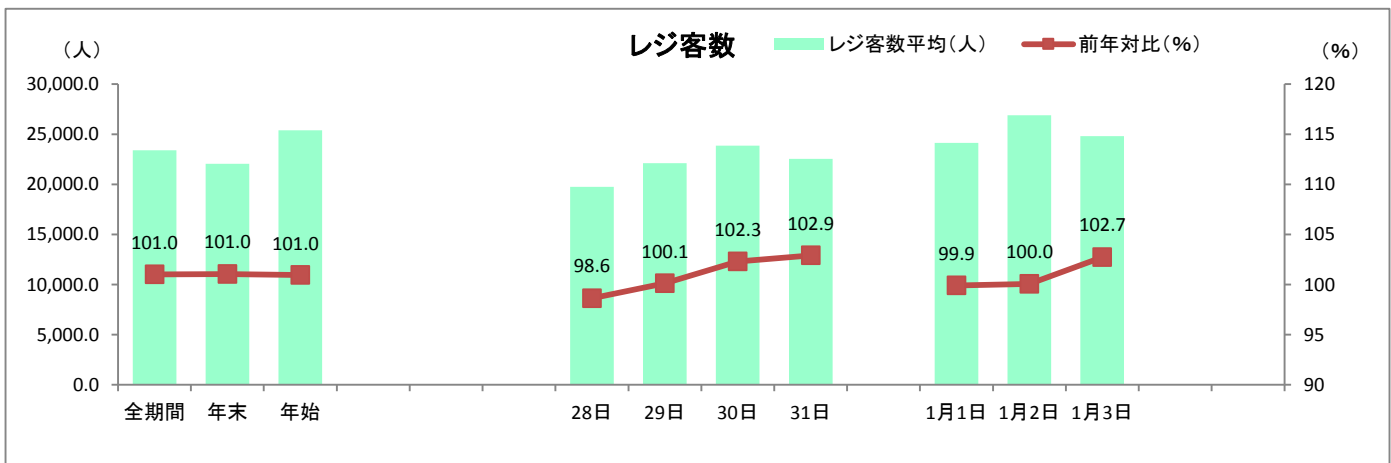
⑥福袋については、参加店舗・販売個数の減少傾向は今年もみられた。内訳をみると、衣料品の福袋に苦戦した一方で、食品関連・コスメ関連が好調との回答がみられた。

※当協会のSC販売統計調査報告は、政府統計に合わせて消費税を含めて算出しております。

■売上高前年対比



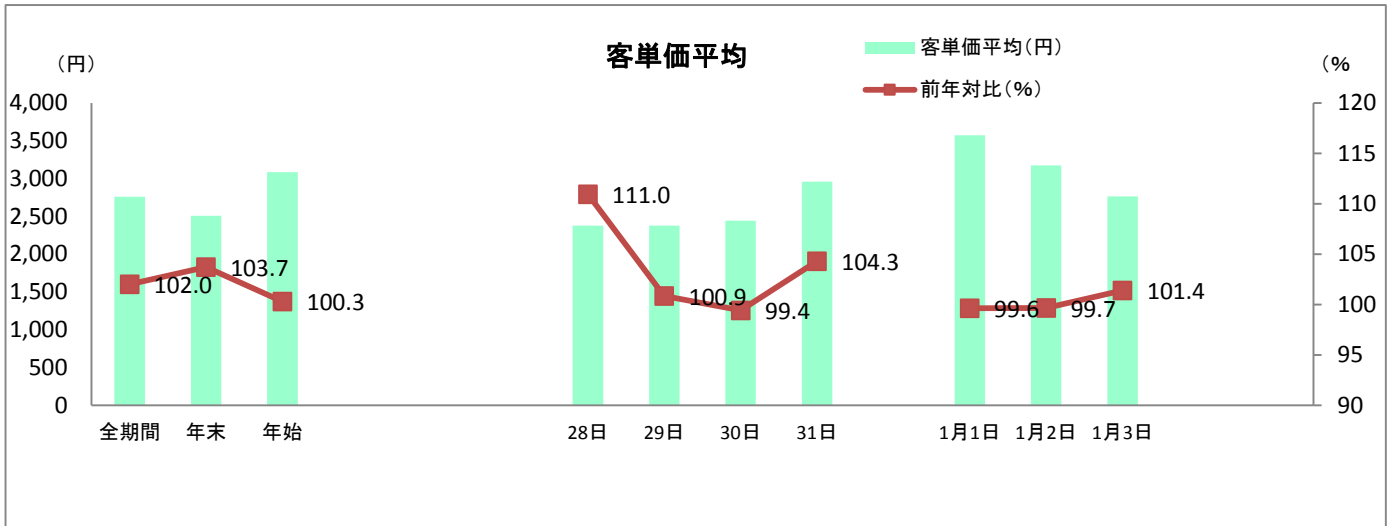
■レジ客数



レジ客数平均(人)

	全期間	年末	年始	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月1日	1月1日
2016-17年	23,401	22,056	25,378	19,732	22,108	23,858	22,527	24,117	26,886	24,792
2015-16年	23,167	21,828	25,136	20,007	22,083	23,320	21,892	24,141	26,873	24,136

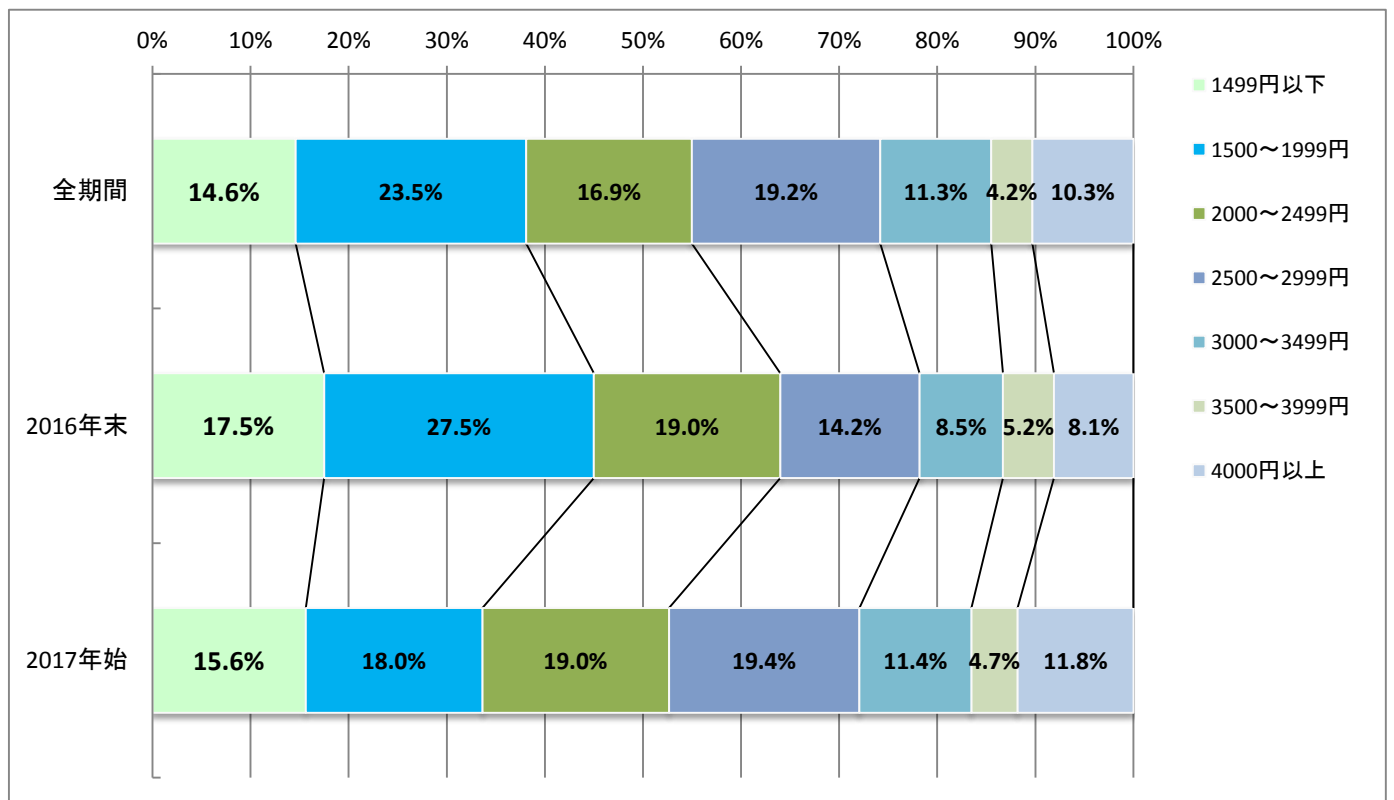
■客単価平均



客単価平均(円)

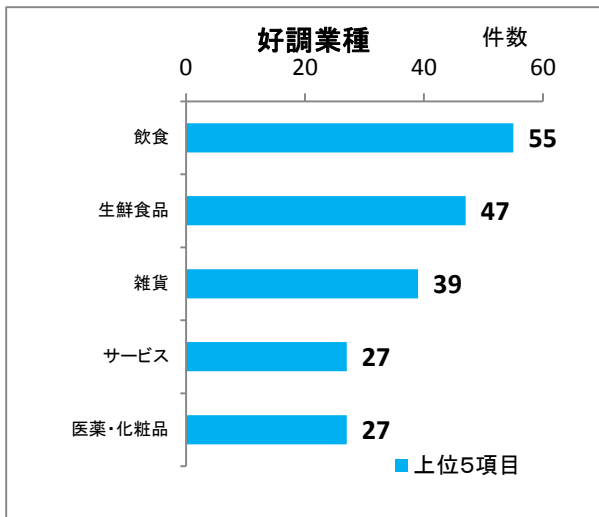
	全期間	年末	年始		12月28日	12月29日	12月30日	12月31日		1月1日	1月2日	1月3日
2016-17年	2,761	2,508	3,085		2,378	2,378	2,442	2,961		3,574	3,177	2,765
2015-16年	2,707	2,419	3,075		2,143	2,357	2,456	2,839		3,587	3,188	2,726

■客単価の分布

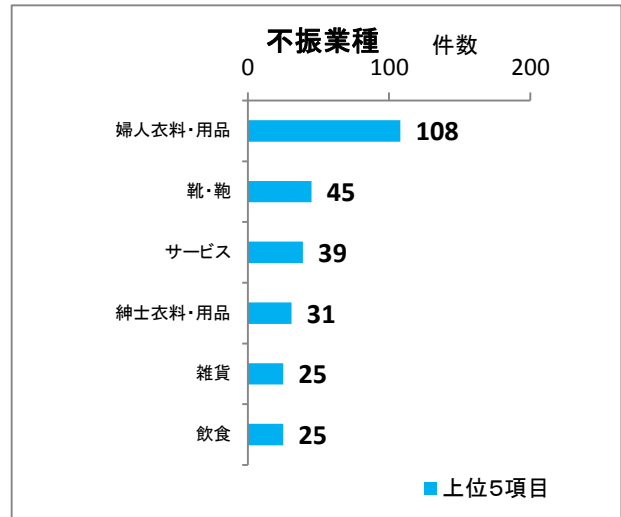


	1499円以下	1500~1999円	2000~2499円	2500~2999円	3000~3499円	3500~3999円	4000円以上
全期間	14.6%	23.5%	16.9%	19.2%	11.3%	4.2%	10.3%
2016年末	17.5%	27.5%	19.0%	14.2%	8.5%	5.2%	8.1%
2017年始	15.6%	18.0%	19.0%	19.4%	11.4%	4.7%	11.8%

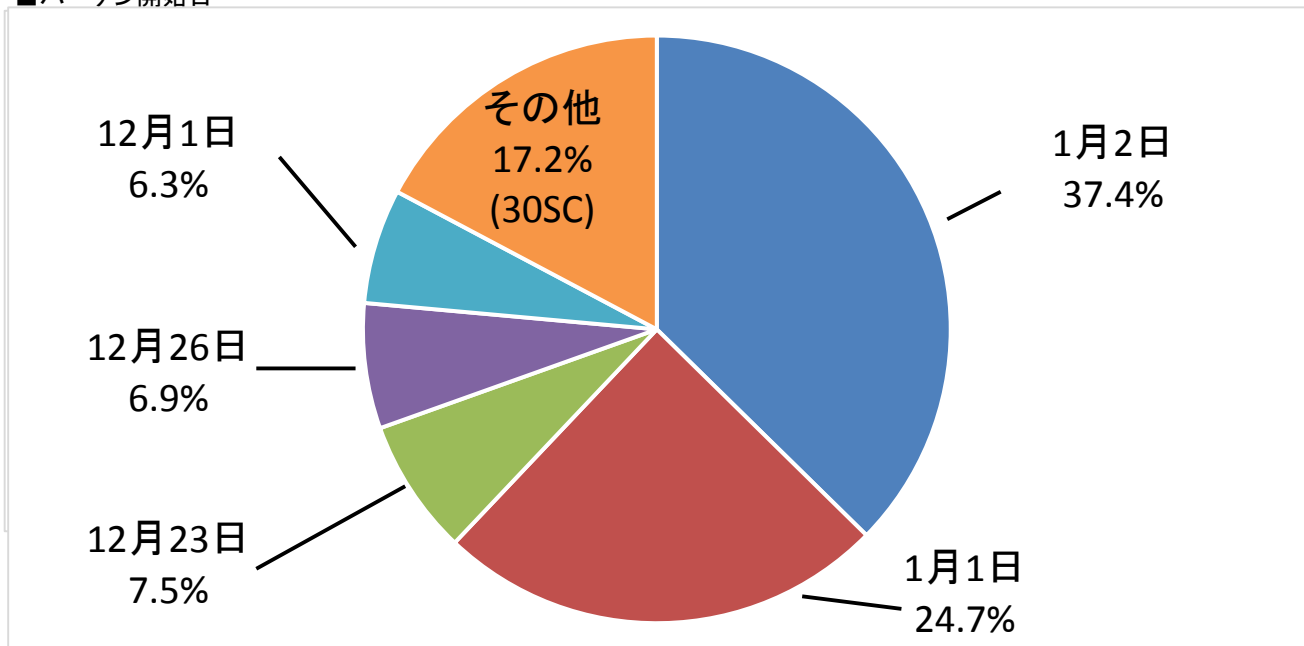
■好調業種(複数回答)



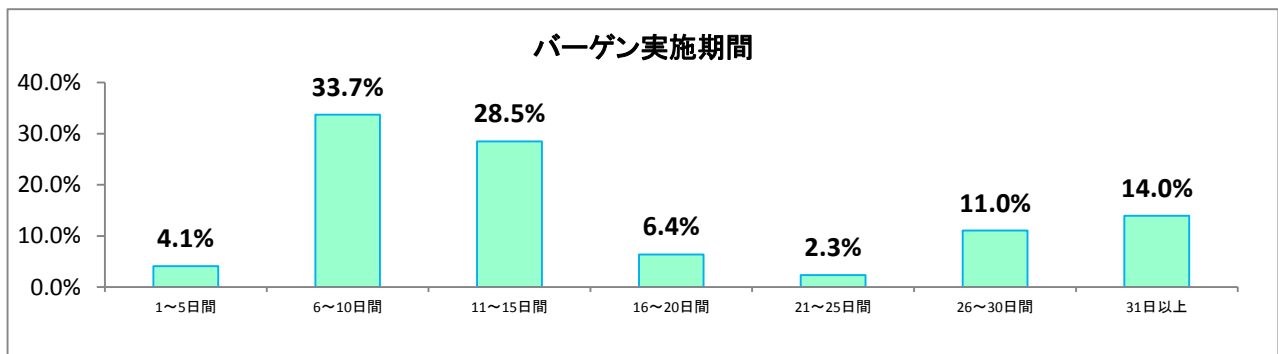
■不振業種(複数回答)



■バーゲン開始日



■バーゲン実施期間



(一社)日本ショッピングセンター協会 調べ
 調査期間: 2017年1月13日~2月2日
 調査対象数: 232sc